

「2019 年のための詩篇」

90:1 主よ。あなたは代々にわたって私たちの住まいです。

90:2 山々が生まれる前から、あなたが地と世界とを生み出す前から、まことに、とこしえからとこしえまであなたは神です。

90:3 あなたは人をちりに帰らせて言われます。「人の子らよ、帰れ。」

90:4 まことに、あなたの目には、千年も、きのうのように過ぎ去り、夜回りのひとときのようにです。

90:5 あなたが人を押し流すと、彼らは、眠りにおちます。朝、彼らは移ろう草のようです。

90:6 朝は、花を咲かせているが、また移ろい、夕べには、しおれて枯れます。

90:7 まことに、私たちはあなたの御怒りによって消えうせ、あなたの激しい憤りにおじ惑います。

90:8 あなたは私たちの不義を御前に、私たちの秘めごとを御顔の光の中に置かれます。

90:9 まことに、私たちのすべての日はあなたの激しい怒りの中に沈み行き、私たちは自分の齢をひと息のように終わらせます。

90:10 私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。しかも、その誇りとするところは労苦とわざわいです。それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。

90:11 だれが御怒りの力を知っているでしょう。だれがあなたの激しい怒りを知っているでしょう。その恐れにふさわしく。

90:12 それゆえ、私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そうして私たちに知恵の心を得させてください。

90:13 帰って来ててください。【主】よ。いつまでこのようなのですか。あなたのしもべらを、あわれんでください。

90:14 どうか、朝には、あなたの恵みで私たちを満ち足らせ、私たちのすべての日に、喜び歌い、楽しむようにしてください。

90:15 あなたが私たちを悩まされた日々と、私たちがわざわいに会った年々に応じて、私たちを楽しませてください。

90:16 あなたのみわざをあなたのしもべらに、あなたの威光を彼らの子らに見せてください。

90:17 私たちの神、主のご慈愛が私たちの上にありますように。そして、私たちの手のわざを確かなものにしてください。どうか、私たちの手のわざを確かなものにしてください。

はじめに

火曜日には、もう 2019 年の元旦です。

世界中の人々が、新年への夢や期待を持ちます。

私たちクリスチャンは、この詩篇から神について学んだことを覚えて新年を迎えることができます。

詩篇 90 篇は、150 篇ある詩篇の中で最古の詩篇です。

神の人と呼ばれたモーセによって記されました。（ヨシュア記 14 : 6）

この詩篇のテーマは、人間の罪の性質の弱さや死生観です。また、混沌とした世の中をどう生きるかについてです。

新年という未来について考えるのにぴったりの詩篇です。

モーセがこの詩篇を書いたのは、カデシュの荒野でイスラエルの民が信仰によって前進しなかったときである可能性があります。この出来事は、民数記 13-14 章に記されています。

イスラエルの民の年配者が全員死ぬまで 40 年間荒野で暮らすことになる、と神が民に宣告されたときです。

この悲劇に続き、モーセの姉ミリヤムが亡くなりました。（民数記 20 : 1）

またモーセの兄アロンも亡くなりました。(民数記 20 : 22-29)

モーセが神に従わずに岩を打ったのは、この二つの死の間でした。(民数記 20 : 2-13)

モーセは、異教徒の地であるエジプトに 40 年間暮らしました。そこで挫折を経験し、ミデヤンの地で身分の低い羊飼いとして 40 年間暮らしました。その後、300 万人近くのイスラエルの民を率いようと何年も努めました。彼は、どうやって「神の人」となったのでしょうか。モーセの人生には紆余曲折がありましたが、それらをひとつひとつ乗り越えたのです。この詩篇で、モーセは自らの心を明かしています。私たちが神から力と知恵を得て 2019 年の人生の旅路を進むためです。

今日のメッセージが、新年をとおして皆さんの励みとなりますように。

この詩篇から、モーセは 3 つのことを教えてくれます。

ひとつめは、2019 年の旅路を歩む私たちにとって、帰るべき家は神であることです。

次にモーセが教えてくれるのは、私たちは常に学んでいるということです。2019 年、私たちの人生に起こる様々な状況は、私たちの学び舎です。

3 つめにモーセが教えてくれるのは、イエス・キリストを信じる信徒であるなら、2019 年の私たちの未来は祝福されているということです。

1. 私たちは、2019 年を旅する旅人に過ぎない。私たちの帰るべき家は神である。(1-2 節)

誰にとっても、生まれてから死ぬまでの人生は旅です。

けれども、イエス・キリストを信じる信徒にとって、それは地上から天国への旅です。その旅路は容易いものではありません。

ヤコブは自らの 130 年間の歩みを「わずかで、ふしあわせ」と呼びました。(創世記 47 : 9)

それでも、ヤコブは最期まで神につき従いました。

彼は、息子たちをひとりひとり祝福しながら、杖に寄りかかって死にました。

ヘブル 11 : 21

11:21 信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝しました。

モーセは奴隷だった民を率いていました。彼らはよく不平を言い、民を率いるためにモーセが犠牲を払っていることにはあまり感謝していませんでした。

民数記 33 章には、イスラエルの民が旅した間に滞在した 42 個所の地名が記されています。

けれども、モーセにとってそれらは帰るべき家にはなりません。神ご自身がモーセの帰るべき場所だったからです。これは、2019 年に覚えておくべきすばらしい真理です。

OIC には外国出身の人たちがたくさんいます。

もしかすると、来年ホームシックになるかもしれません。

けれども、クリスチャンなら、神が私たちの帰るべき家だということを覚えていてください。

私たちは天国の国民です。そして、イエスが永遠へのパスポートです。

モーセは 1 節で語ります。「主よ。あなたは代々にわたって私たちの住まいです。」

そして、2 節でこうつづけます。「山々が生まれる前から、あなたが地と世界とを生み出す前から、まことに、とこしえからとこしえまであなたは神です。」

申命記 33 : 27a

33:27 昔よりの神は、住む家。永遠の腕が下に。

モーセは、主に「とどまる」ことを知っていました。そして、力と慰めと励ましと助けを日々、主から得ることを心得ていました。

出エジプト記 33 : 7-11

33:7 モーセはいつも天幕を取り、自分のためにこれを宿営の外の、宿営から離れた所に張り、そしてこれを会見の天幕と呼んでいた。だれでも【主】に伺いを立てる者は、宿営の外にある会見の天幕に行くのであった。

33:8 モーセがこの天幕に出て行くときは、民はみな立ち上がり、おのおの自分の天幕の入口に立って、モーセが天幕に入るまで、彼を見守った。

33:9 モーセが天幕に入ると、雲の柱が降りて来て、天幕の入口に立った。主はモーセと語られた。

33:10 民は、みな、天幕の入口に雲の柱が立つのを見た。民はみな立って、おのおの自分の天幕の入口で伏し拝んだ。

33:11 【主】は、人が自分の友と語るように、顔と顔とを合わせてモーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が幕屋を離れないでいた。

モーセは、日々静思の時を持ち、神と語り合っていました。

2019 年を靈的に乗り切るには、私たちも神と一対一の時間を過ごす必要があります。

神のみことばである聖書を読み、神と語るのです。

これは、私たちにとって新年のもっとも重要な要素です。神と一対一で過ごし、神のみことばである聖書に親しむことです。

そこで覚えておかななくてはならないのは、神との語り合いは双方向であるということです。

神は私たちに語りかけられます。私たちは、その御声に耳を傾けて、教えに従う必要があります。

新約聖書では、「神にとどまる」ことは、ヨハネ 15 : 1-11 に記されています。

ヨハネ 15 : 1-11

15:1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。

15:2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。

15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。

15:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

15:6 だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。

15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。

15:8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。

15:10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。

15:11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにある、あなたがたの喜びが満たされるためです。

私たちが神につながっていなければ、そして、神にきよめていただく覚悟がなければ、神のお役に立つことは決してできません。神の剪定ばさみを入れられるのはつらいですが、それによって、神の栄光のためにさらなる実を結ばせてくれます。

失望は、神が私たちの信仰を成長させてくださるチャンスである場合が多々あります。ある英国人牧師で、教会を牧会するために米国に移住した人がいました。

移住の際、すべての持ち物をコンテナに積んで米国に送りました。

奥さんは、自分たちが持っていた高級食器セットを絶対に持っていきと言いました。それは、高価で丈夫な食器でした。

コンテナは米国に到着し、教会員たちが用意した借家に運びこまれました。教会員たちは、新しい牧師のためにいろいろ準備してくれたのです。

牧師は米国に到着しましたが、入居するはずだった家が二日前に火事で全焼したと聞かされました。唯一焼け残ったのは、奥さんの高級食器だけでした。

奥さんの高級食器が火に耐えられたのは、その制作過程で一度すでに高温で焼かれていたからです。一度焼かれていけばもう焼けません。

食器を拾い集める牧師に、神は語られました。

あなたは、きよめを教える説教者だ、神に人生を明け渡すよう人々に促しなさい、と語られたのです。人生の試練に耐えられるのも、すでに焼かれて神に明け渡されたものだけです。

この牧師は残りの生涯、人生を神に明け渡すことときよめについて、この例話をういてクリスチャンに教えました。

神がすでに所有権と支配権を握っておられるものを、神が取り去られることはありません。

2019年、私たちが神のみこころのために神に人生を明け渡すなら、人生に起こることはすべて神の栄光のためになります。

家が火事になった話をこの牧師がロンドンの集会でしてくれたのは、約25年前のことです。当時70歳くらいでしたが、すでにその例話を20年以上語っておられました。

彼の話には、非常に説得力がありました。

皆さんも、そう思われたでしょうか。

2019年に祝福を得る道は、神を帰るべき家とすることです。そして、私たちの家庭で神に心地よく過ごしていただくことです。そうすれば、2019年が失望の年になることはありません。

2. 私たちは人生で常に学んでいる。2019年に置かれる状況は、学んで成長するための学び舎である。(3-12節)

モーセは、エジプトで最高の教育を受けました。(使徒7:22)

しかし、神と歩む中で学んだ教えは、学問よりはるかに大切でした。

この個所で、モーセは大切な人生の教訓をふたつ教えてくれます。

まず、人生ははかなく、すぐに過ぎ去っていくことです。(4-6節)

次に、人生はつらく、時に無意味に思えます。(7-11節)

4-6節で、モーセは人生のはかなさを教えるためにいくつかの例を挙げます。

4節で、永遠に比べれば、私たちの人生はとても短いと言います。

千年でさえ、神の御目には一瞬です。
モーセは、イスラエルの草地について教えてください。
朝には草に露が降り、草は少し伸びますが、昼には太陽が照り付けて草をしおれさせます。夜になるころには、すっかり枯れてしまいます。
モーセは 120 歳で死にました。ヨシュアは 110 歳、けれども、ダビデが亡くなったときはまだ 70 歳でした。
神が私たちの命をいつ終わらせられるか、誰にもわかりません。
大切なのは、死を迎える備えをしておくことです。
来年の 2019 年には、神は私たちにあらゆる人生経験をさせ、イエスに似た者へと成長させてくださるでしょう。
私たちの聖化の過程は来年も続きます。
各自の体験の中で神のみことばに従いさえすれば、私たちはイエス・キリストの信徒として成長します。
モーセが提供する答えは、「私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そうして私たちに知恵の心を得させてください。」というみことばです。
では、自分の日を正しく数えるとはどういう意味でしょうか。
ヘブル語の表現は、「自分の日々をはかる」と訳すことができます。
それは、神の栄光のために一日一日を有益に用いるという意味です。
自分の日を正しく数えるのに役立つことを 3 つお勧めしたいと思います。

a) しっかりと時間管理をする。

英語には、「何かを依頼するなら、忙しい人に頼め」という言葉があります。
これは、忙しくしている人は時間管理が上手だからです。
悪魔は人に、時間を無駄に過ごさせようとします。聖霊は、良質な時間を持つように促してくれます。
時間の浪費をできるだけ少なくし、なるべく時間を有意義に過ごす必要があります。
日本人の毎日の平均通勤時間は 1 時間 15 分です。
週 5 日働くとして、一週間で 6 時間以上です。
6 時間も電車の中で何ができるでしょうか。
その 6 時間祈ったら、その祈りに神がすばらしい方法で答えてくださるのを体験できるでしょう。
暗唱聖句を覚えれば、神に励まされます。また、周囲の人たちに話すときにそのみことばを用いることができるでしょう。
聖書アプリで音声を聴くこともできますし、信仰書を読むこともできるでしょう。
そうすれば、たましいが励まされます。けれども、何を読むかには注意してください。
自分の日を正しく数えるためにできることはたくさんあります。
もし 2019 年が私たちに与えられた最後の一年だったとしたら、自分のやりたいことをいろいろ計画するでしょう。いわゆる、死ぬまでにやりたいことリストです。
一時の楽しみを与えてくれることではなく、霊的な事柄を選んでする人はどれだけいるでしょう。

b) 神に与えられた機会を活かすように留意する。

2014 年は私たち夫婦にとってつらい一年でした。神が私たちの人生に何をなさっているのか、神が私たちをどこに導いておられるのか、はっきりわかりませんでした。

けれども、日本に来てここ OIC で皆さんに仕える機会が神から直接与えられました。

もし私たちが日本に来ないと決めていたなら、来ないことを選ぶ理由はいくらでもありましたが、神から与えられた機会を逃していたでしょう。

どんな犠牲を払っても、2019年には神に仕えるよう神が与えてくださる機会を自分のものにしてください。

そのような機会について神が語りかけてくださるとき、聖霊の導きを敏感に察知できるよう気を付けましょう。

自分の能力や状況に基づいて神の機会を判断してはいけません。神に明け渡すなら神が私たちをとおして働かれる可能性に基づいて判断しましょう。

c) 奉仕、家庭、交わり、余暇の間で生活のバランスを取る。

日本企業は社員に長時間残業を強いることで有名です。

クリスチャンの中には、よりよいワークライフバランスのために、非正規雇用を選ぶ人もいます。それによって、神によりよく仕えることができます。

これに伴う犠牲は、金銭面です。たいへんですが、神は常に、神を重んじる人を尊重して下さいます。

サムエル記第一 2 : 30

2:30 それゆえ、——イスラエルの神、【主】の御告げだ——あなたの家と、あなたの父の家とは、永遠にわたしの前を歩む、と確かに言ったが、今や、——

【主】の御告げだ——絶対にそんなことはない。わたしは、わたしを尊ぶ者を尊ぶ。わたしをさげすむ者は軽んじられる。

3. イエス・キリストを信じる信徒であるなら、2019年の私たちの未来は祝福されている。

(13-17 節)

ここまで、この詩篇の著者モーセは多少否定的でした。しかし、この最後の部分では、私たちの人生に働く神の恵みを強調し、私たちを励ましてくれます。

私たちの人生で何よりも必要なのは、神の恵みの働きです。

イエス・キリストが私たちの主であり救い主でいてくださるなら、主は友として私たちを 2019 年へと連れて行って下さいます。

この最後の箇所は、神のあわれみと尽きない愛を強調しています。

神は、試練や困難の真ただ中でも、ご自身のご臨在によって私たちを祝福することを望んでおられます。

詩篇 90 : 13-15

90:13 帰って来てください。【主】よ。いつまでこのようなのですか。あなたのしもべらを、あわれんでください。90:14 どうか、朝には、あなたの恵みで私たちを満ち足らせ、私たちのすべての日に、喜び歌い、楽しむようにしてください。90:15 あなたが私たちを悩まされた日々と、私たちがわざわざに会った年々に応じて、私たちを楽しませてください。

モーセは、神の祝福を得るとはどういうことか、経験から知っていました。そして、その祝福を再び求めていました。

神は、新たな始まりと新たなチャンスの神です。

過去の失敗や挫折から学びましょう。けれども、それらにとらわれないでください。

神は、皆さんの新年を祝福したいと願って下さっています。

子どもを祝福したくない父などいません。

新しい年を迎える今、神とともに新たな一年を始めましょう。